

<p>経済・経営</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 資本主義という歴史的対象の理論的・構造的理解</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 資本主義 ■ 歴史と論理 ■ 近代社会 ■ 商品経済 ■ 市場機構 	<p>資本主義経済の基本的な仕組みのなかに、どのような歴史的変化の可能性が入っているのか。またその中で個々の主体たちはどのような役割を担っているのか。こうした問いを中心にして主に理論的な研究を行ない、過去の歴史社会および現代社会の分析に活かしていくことを目指している。</p> <p>資本主義社会は歴史的にどう変わってきたのか、またどう変わってゆくのかということは、つねに近代人の一大関心事であっただろう。A・スミス、D・リカード、K・マルクス、J・M・ケインズ、J・シュンペーターなど、時代を代表する経済学者たちはそれぞれに資本主義の行く末を語ってきた。また資本主義という現象の巨大さゆえに、経済学者のみならず社会学者なども資本主義という存在を考察してきたことはよく知られるとおりである。昨今はAI技術によって資本主義がどう変わるのかということがよく論じられており、資本主義の来し方行く末という問題は学問的な話題であるだけではなくて、われわれの生活に直接に関わってくる事柄でもある。</p>
	<p>しかし資本主義をどう理解するかということは、それ自体難しい問題である。そもそも「資本主義」とは何であろうか。ひと口に資本主義経済と見なされるものでも、産業組織や労働組織・雇用形態といった内実は歴史的にも地域的にも一様ではない。そういった対象である資本主義をどうにか系統的に理解しようとするならば、まず「資本主義とは何か」という点に対する理論的・論理的な考察を詰めることが必要になる。それを中核にして歴史的な現われ方にアプローチしていくという筋道が考えられる。</p>
<p>川崎 兼人 Kento Kawasaki</p>	<p>そうした方法の一つとして、原理論・段階論・現状分析という三段階をたてる立場がある(いわゆる宇宙論)。細かい議論を省けば、私も基本的にこの立場によって研究を行っており、特に原理論の分野で活動してきた。原理論とは上述の「資本主義とは何か」という問題に対して、基本的な理解を与えることを試みるものであり、資本主義経済の基礎的な仕組みや運動を考察する。だがここに生じるのは、抽象的に理論を突き詰めるほど、実際の歴史分析から遠ざかる(ように思える)という問題である。われわれは資本主義を語るにあたって曖昧さをできるだけ排除しなければならないが、曖昧でない抽象理論を構築する過程は同時に、現実の歴史的で多様な要素を排除・捨象するという面をしばしば含む。構成した抽象的な資本主義論をあらためて現実の歴史に接合することが課題になるということである。</p>
<p>経済学部 講師</p>	<p>私の原理論研究における関心の一つは、歴史的に変わってゆく要素も原理的研究にあらかじめ織り込んでおくということであり、そうした観点からいくつか論文を発表してきた。たとえば、商品の買い手(消費者)の行動に着目した議論がある。従来の原理論においては、買い手はせいぜい価格の高低に反応するくらいの行動しか想定されず、それ以上の主体的な振る舞いはほとんど認められなかった。しかし商品市場について特定の条件を設定してみると、商品の買い手は価格のみならず品質を考慮するような行動も示してくる。そうなれば市場はただ安い商品が売れるだけの場ではなくなる。そのように抽象的な議論の中でも、条件の設定次第では構造の変形を考察することが可能であり、そこから歴史分析にも有意義な議論を展開してゆけると考えている。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門分野 政治経済学、経済原論 	<p>●略歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年 京都大学総合人間学部卒業 ・2016年 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了 ・2022年 同研究科博士後期課程研究指導認定退学 ・2023年 滋賀大学経済学部講師
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●所属学会 経済理論学会 	<p>【主な論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「在庫を含んだ市場の安定性とその変形」『季刊経済理論』57(2)、2020年 ・「流通過程の不確定性と資本の部門間競争」『季刊経済理論』59(3)、2022年
<p>【主な論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「在庫を含んだ市場の安定性とその変形」『季刊経済理論』57(2)、2020年 ・「流通過程の不確定性と資本の部門間競争」『季刊経済理論』59(3)、2022年 	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>ただちに実践的に役立つ研究を行なっているわけではありませんが、これまでの産業・企業の歴史的盛衰などを考慮に入れた、資本主義の理論的研究を進めています。歴史的な流れのなかで現代の資本主義経済ないし産業・企業をどう理解できるかということに関して、皆様の考察や創案の一助にはなりえらと思います。</p>